一般社団法人日本医療薬学会 第 78 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 78 回医療薬学公開シンポジウム
実行委員長 北原　隆志
（山口大学医学部附属病院 教授・薬剤部長）

令和 2 (2020) 年 8 月 22 日（土）に山口大学医学部附属病院オーディトリアムにおいて、第 78 回日本医療薬学公開シンポジウムを開催いたしました（主催：日本医療薬学会、共催：山口県病院薬剤師会、山口県薬剤師会、後援：山陽小野田市立山口東京理科大学)。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で開催も危ぶまれましたが、入館時の体温測定や手指消毒など感染対策を講じて実施することができました。当日は県外からの参加者を含む 119 名(病院薬剤師 78 名、保険薬局薬剤師 36 名、その他 5 名)の方々にご参加いただきました。

今回のシンポジウムのテーマはこれからの薬剤師に求められている、「認定・専門薬剤師のアウトカム～大学と医療現場との連携による専門教育～」といたしました。まず、特別講演として、薬学部を持つ大学病院の薬剤部長である岡山大学病院の千堂年昭先生から「大学と医療現場との連携による専門教育」として岡山大学病院の実践例をもとに、①薬学部教育への薬剤師の介入、②専門薬剤師の育成、③専門薬剤師の臨床的意義とアウトカムについて具体的な実例も交えてわかりやすくご講演いただきました。シンポジウムでは病院に勤務する専門薬剤師、薬局薬剤師、そして薬学部教員と各立場の先生から講演いただきました。感染制御に携わる病院薬剤師の立場として山口大学医学部附属病院の河口義隆先生から多職種チームや圏域・地域ネットワークを踏まえた感染制御専門・認定薬剤師が地域に求められる役割について、がん専門薬剤の立場として神戸市立医療センター中央市民病院の池末裕明先生から薬剤師外来の実践例とともに、その客観的評価と改善について、保険薬局薬剤師の立場としては西日本薬局の大坪泰昭先生から保険薬局における事例を基に地域全体での患者支援について、そして大学教員の立場として山口東京理科大学の黒川陽介先生から早期体験実習等の重要性や問題解決型学習方法の導入について講演されました。総合討論では病院、保険薬局、大学の情報共有が不可欠であり、連携することで患者を支援していくことが重要であることと、アウトカムを評価しエビデンスを構築して、教育へフィードバックが必要であることが確認されました。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、遠路お越しいただきすばらしいご講演を賜りました演者の先生方を始め、最後まで熱心にご参加いただいた参加者の皆様、そして会場準備や企画・運営にご支援・ご尽力いただいた山口県病院薬剤師会・山口県薬剤師会の関係各位、さらには準備段階から種々ご対応いただきました日本医療薬学会事務局の皆様に心からお礼申し上げます。